

雙魚堂日誌  
大正十二年  
九月以降  
震災記

特別  
14  
1919  
587



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

38- 9375

以下  
／／丁  
白紙



く震動止み又動の来えんことを縁約し高田内由と  
せし危守の山上こつけ上りて難を耐てふま此處に  
亘えんあり相違の大津波を破壊し地を歪し  
又銅の大佛像も翻覆し地上より七八の内  
楊も七割を顛覆しなるを認めざる可更なる高  
處より今録の方を見ま大を沈み流石に尾尾  
一片落す大津波を確子兩戸崩れ  
ありしころ、硝子一枚破壊を言けたる扱見え  
けり、忽ち揺り及し列り山上の土地震  
動甚しく或人と足の安定を得ず大樹自身  
を折して震動の終りを俟つ大隈侯別邸  
の方を顧みん、新造の煉化花々の四角の煉

化一時、後ちとも木骨全部露出を見ふ、  
ち早稲田大寺の一角、火災の起ると見ゆ、  
用化の之を監定茶割の自爆より火災  
を起しし也水道無き為め救ふ由なく  
傍親焚焼に委するなり、此間、大隈侯  
の花園、所出明焼并に早大の大津波  
山崩壊の報をすく、地震の激甚の程、  
と此等、より略し得て、全市大火、  
こと騒々しき通り、崩れ、遠近に火災  
の起るを見、急に自動車を號のて高田  
其他と同業、帰宅の途に就き時、一時  
（山崩壊）

家屋の道を塞ぐものあり避難者の絶道なき  
むらうあり。江戸川筋へ出て、車を馳す  
受ふおろきなき電車道の左側川より  
の地の陥没三五人に及びし所あり。電列七  
丈を没す。位より、其田と別れ七家あり見  
んが家前の板塀無きところを見て、おまの損  
害の甚しきやと急急せし。後北若原の全  
く外んたるを知らず、門を入んが家族及び近  
隣の者玄関前へ避難しあり。家族の皆無  
き先づお心をせし。七家屋の被害と告しく玄  
関并ニ中二入口せし。屋瓦は皆落ちて家七傾  
きあり。危険を冒して家に入り母見んが柱を

悉く傾きしに居る外れなき。おまおまのハ  
リの硝子雨戸と驟雨の為めを乾まておま  
なること、七全部庭に向つて倒れ多く、破  
壊しあり。おまの床并ニ床脇の壁も全  
部破壊し、玄関入口よりおまの間の多く  
崩れし。瓦なきなる。六七十の虫箱と七八分  
通り折重なりておまの玄関上り口の左  
右の壁崩れなき。おまの玄関の戸を閉く。能く  
おまの便所のおまも皆山崩れあり。寝室祭  
の間の茶室七の被室もしく、茶室の  
のピアも外九床の河原全壊破れ。室  
と寝室の方へ向つて石しく傾きあり。此

芝罘を見ても懐かしく、為す所を知らず、  
此の居宅二間を新築、属すを以て、  
其の所のしく傾き、なるを以て、  
母あつたうしと不幸中の幸と謂ふ、  
此二室七他の諸家の如く、  
其の窮状を陥りしを以て、  
在りしこと、定めぬとも、  
餘震も、  
地、  
と、  
り、  
い、

火：  
一、  
田、  
延、  
あ、  
と、  
長、  
け、  
動、  
と、

へり果し其の報のこころ横濱の震原を京都の  
比とあてしむし也又逗子鎌倉方面の津島を傷不  
の七のあり、昨今同地方の地震の中の人多き地震  
動を東京も甚しく別荘強人と山崎、皇族三  
方歴死松方侯公邸も一歴を免僅に救はる地  
方雨も海嘯起る海浜浴場も人皆さういと  
云ふ、深文及び都下火災に焼失し此各區の  
重なる建築の大害をさぐる、此祝慶先づ焼  
け官紳諸銀行家と全滅新書社と精印東京  
日に都の外悉く焼失印刷会社も亦全滅を傳  
ふ夜三時にもも風位の甚なる火を新らし  
き方面へと推し移り、朝も全市を焦土と帰せ

えんじまの地あり幸に牛込区と江戸川の前浜  
を喰ふを得なむ怪しき鮮人志きら入らぬ  
放火をさすもあつ區民要衝を拒し極力警告  
戒通行人と一々誰何し不路を尤も危険に付教  
人主告して絶然一人を入んこと、あり、早稲田  
大のあり特に軍隊を以て警衛するを徹宵火  
災を防禦しむる為の幸に此物もなきを得比  
り、四谷小石川方面も亦大災を免くる、半世紀百  
二架きたる日本文化の中心をゆりの間、今も鳥居  
に帰し畢竟女嘆又嘆、三時過兎の空に入り  
眠し就えとも、河新ちなき地震：不あを  
感し通宵睡を得ず。



夕の二万十の震災才二〇也天候亦穏まゝ  
 餘震ありに繼いで激震あり、家前川に以て  
 難なること明りて果ては、大隈延子を見  
 高の人十あり、前崎男久須美秀三、坂口  
 吉内、高久、寛、難波理了、高子吉、古川、  
 玄留、お島、由也、信の森、外敷人見、おの、  
 文、こ、ま、あ、あ、人の内、え、火、此、こ、こ、こ、  
 杉、木、輪、壽、伯、田、文、次、中、上、原、康、道、天、  
 為、之、等、さ、う、と、ま、き、得、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、  
 ち、息、ま、ま、う、一、天、候、を、以、つ、て、元、ち、畫、ち、時、ら、ま、  
 せ、う、さ、う、折、空、中、ま、う、峯、の、こ、こ、こ、こ、こ、

緯あるを思ふ、先此雪を以て染つきたり、  
 或るは蒸気の心用、う、雲、浪、地、就、を、種、  
 々の説あり、或るは火山新なるあり、この未  
 だ確者と知る能はず、人心不安の折柄、警  
 報あり、午後一時を以て二時迄の間は、海、  
 えん十二時より、絶、對、に、屋、内、に、居、る、可、し、  
 と果して十二時迄は、お、島、の、激、震、あ、り、し、  
 前、の、い、ま、を、お、島、の、危、死、を、後、に、さ、う、も、  
 り、し、私、は、文、三、田、吉、雄、日、佳、平、銀、治、  
 とら、等、親、族、葬、に、由、縁、の、こ、も、の、纏、り、て、  
 する、海、震、の、人、を、救、つ、ま、折、柄、展、  
 る、鮮、人、の、救、つ、ま、う、風、況、も、彼、等、あ、

らうと云ふに十の烈風に乗じ復讐の放  
を棄しつとありしに意おの大被害の  
ありたるを樹とて一に現島の大火動を起  
の各所へ入つてみ決死の放せんとつとめつとあり  
各區の突後、此等の特の暴君の  
七力あり、其を知らざりし者の終に  
のちるを悉起し、甲説と傳、こゝに大悪  
愴を起し、殺氣列するに、諸君は、鮮人を殺  
せりんば、此等の概あり、其の現行犯の捕ら  
もの各所に多く、何れも現行犯に私刑を行ひ、  
及七陽に抑つて陰にその為するに任するの態を  
り、今この家前も二人の現行犯鮮人捕らんと

町内の壮丁に打撲せらるゝ、彼等の使用する放  
火用材も押収せらるゝ、町内の数ヶ所を自治的  
に重んずるも、或る火災の免らぬことを顧  
慮し、四時と自らの印刷金紙に別り、自乗貨  
車をも借りんことと求むるも、ガソリンも  
の用を考へ、その必要も、出版部も、一輛の  
車をも定おす事えんことを求むるも、同も、  
日頃し、その物を、貴重品の品若干と、右車に載  
せ、同も、故を、あつて、万に、備ふ、大なる、  
復の途次、徒歩し、市中、被定の状を、視察し、  
畑、米、麦、酒を、傾け、其、を、  
夜露、天、の、

三日

昨、夙今朝、地震の破損の屋の入り、第一火災の  
用と云ふと家人と共、先づ折物敷の中幅を大衆  
を収め、右三個外、昂三味線、器入、金を四ツ花  
銀流、二車と見、色、四書、故、預け入る、とあり、  
此地、震、軒、く、ま、前、中、家、人、と、感、を、感、せ、り、然、れ  
ども、尚、ほ、は、東、前、の、加、難、所、を、撤、ち、ま、あ、ら、ず、西  
村、竹、夢、高、の、半、峯、古、代、四、山、幸、次、ら  
森、(口、内)、前、田、多、花、石、井、春、五、中、高、須、梅、江、  
尖、江、針、一、交、マ、事、あ、る、ま、く、の、未、定、り、と、門、近、く、  
構、ひ、な、る、テ、ン、ト、内、に、應、接、す、る、ハ、久、江、と、合、資、社、の、子  
と、構、造、す、る、偶、々、大、工、格、機、計、出、ま、ん、と、あ、る、。、飲、食、

と供し、家屋に破し、立急の手當を考へ、  
貴重品の相ハ、點、四、吉、銀、の、車、を、借、り、石、井、お  
五、中、に、托、し、四、山、の、庫、に、あ、け、入、る、未、比、お  
少、配、達、し、来、ら、ん、と、名、辨、外、の、電、柱、に、貼、付  
し、あ、る、。、微、す、ん、心、内、閣、漸、や、略、の、組、織、成、り、こ  
と、あ、る、。、似、し、身、事、の、大、任、必、任、ま、し、尚、戒、表、会  
派、青、微、身、会、の、名、布、ら、ん、を、知、り、新、報、に、  
撮、り、ハ、今、日、人、體、に、感、せ、ら、ん、と、午、前、八、時、と、十二  
時、近、八、十、数、回、の、揺、震、あ、り、。、此、ら、も、十二、時、ら、  
八、時、近、二、百、或、十、回、の、揺、震、あ、り、し、。、此、ら、氣  
象、台、の、報、告、と、あ、り、。、四、推、災、の、統、計、。、未、比、物  
産、の、報、告、送、り、。、此、ら、の、報、告、送、り、。、

火事も続かず、午後四時、後には終に野を  
もやぶ火災利産先うん難き形勢を  
一、市の各々を救済に株券類を  
のいざと云うて退かんと出版部  
車を借り、前に備ひ置く、玄米の割賦を  
早大申込、鮮人の暴行に就て種々の報  
刺さる、此スルんを擧ぐると鮮人横行危  
険なること、宣傳あり初めて門を閉じ、支子  
の考あふ買入んとする。ビヤノ洋人の家、  
へて破壊し、さるも之の命のみ無言と得  
との消息を得、通信全く杜絶、元行機と無  
線電信、少々の通信と司る、其の断絶し

会料の供給未以、端に就き、金融を全く杜  
絶し、いつ閉店するや、餘をもつ、何もの心  
細きの極み也、避難の昆比田、火災、倉庫、  
附近にあるを以て、人と考へて見、ありし  
各區の慘状、新報外、兼、目撃者、者の報、  
追て、今のす、光の本所、深川、全滅、殊に本所  
の被服廠、境内、避難の死者、火災、  
道路と失し、全滅を報す、銀、日本、  
火災と全滅、近、神田、全滅し、本郷、  
火災と全滅、僅、火災と考へん、  
麻布、芝の或る部、火災と考へ、  
者、百、火災と考へ、

勢より細うすに惨報の一二を記すんが日本地の  
の被害の難多しをいふに遠くはひびきあつても女子二  
る花を折重うう塔死を遂げうと傳へお茶の  
舟の遠くを岸を渡りて全死埋せうと報じ  
墨堤の新大橋の人の重なる塔くちうをいしうと傳  
へ深川のお難者の肉材木に花をひきまゑに葉う  
果た入ううお周囲の火災に就きて得てうす  
舟に入らんともうする墨お熱湯化し後入ること十  
ハ才無幾の死を遂げけけうと云い何んか酸鼻の極  
るを殊るあしきう本所の被服廠然るも周囲の  
火災と此のお難者と一種の旋風を生し或る  
人と空中の捲き揚げ、或る地域にあるト夕ニ也

の毒をも執りて首を切らうと云い、舞の之後あつしを  
れに觸れて首を切らうと云いしと云ふは惨状  
ぞくと思ひてもよあう、菊池三九郎余の家  
附出に住す、其の河原に書齋を設け入るを  
崩壊し、外部より物を取出し得る候も、  
たのみ修理の手あう、全部早大の音  
附し、しうも出づ、お茶の風流し、町内  
警戒の表、時々倍す、お茶の道も、  
通すとの言傳あり、一曰喜もあう、此際お  
道の通す、お茶の防火の為、大なる捨也  
十二時をこもるも睡眠を得ず、冷酒を  
傾け斬やく、天のち、眠りを得る

時、風潮来物と整理する、塩は白く、  
 雄大江に疾つ尋見ある、直つ中から  
 傷、災震前出京才米四、とせ、未訪、地等  
 ハ、所内の警戒終、誰何を言、け、  
 多、大江と海流中、昂意の、  
 成、又、煙、  
 災を、  
 後、葉を焚く、  
 吾しと、  
 全、  
 の、

と、  
 や、  
 市、  
 外、  
 を、  
 任、  
 溢、  
 と、  
 遊、  
 の、  
 ハ、  
 の、

とも一種の風説傳り、町々五千の暴徒兵馬を擧  
え大島方面より馳せひ来る工兵世田谷に喰ひあ  
めりも散乱せる乱徒或は牛込迄く馳せひ来  
りもあらずと云傳ふるも、物事風も烈  
しく人心あらざるが、斯る折に鮮人の暗号を  
と示すものあり、たの如し各所、此等の符号  
④バツ ヤサツ A 放火 A 一どろヤ  
を白墨に志すものあり或るは黒に志すものあり  
のどろどろ現に町内、此等の符号ある家、鮮人  
に放火せんやと捕りて倒れ一概に打潰す可  
き歎、天のまを眠る。

五。

時、今次の地震家屋を大破し、古物も幾  
人と破損あり、薄く鏡や陶器を破壊し、古  
唯れ雨戸を破壊し、さき不便甚し、と能く  
取り貴重品の圓と荒干と昂の物、後、母屋、  
戸障りあり、危険と感ずる、故に、増子を去り、  
中学金庫の件、身より、後、漢書、新社の木場  
一三高橋、その、印、荒干の内、  
の供養を得んとす、所、荒干、  
早大も、玄米三斗、到来、今日の始、  
配達あり、又、報、配達あり、庭園  
の池、漸く、江戸川の、

後舊行人舟便を感ず。中野欽法伊等も  
リ旋而兼領。以後いよいよ出立見舞いある。白雲  
次中三島良翁亡才の女本間きん并に其配  
偶才ある。終日家人を役し。團吉の假教。現  
に没跡あり。報にちり。後之。終焉。後之。誤報  
ありし。米支給の為め。日々の人員。現へ。開始さ  
余の家幸に若干の剩米あり。家園におあり。命  
業あり。井好満。さう。此際多々の現金を。あめ  
せん。同日。同。あ。て。現。金。揚。こ。後。未。所。お  
い。き。之。月。未。支。出。し。お。く。さ。う。倒。さ。る。幸。に。月  
末。若干の金も剩し。且つ地震の起る十日前

早大も。余の。五。拾。金。五。十。圓。も。交。付。の。う。ら。い。あ。り  
常。世。現。金。に。六。拾。も。先。け。て。も。幸。の。一。と。謂  
ふ。可。也。今。夜。熟。睡。三。時。半。に。利。り。覚。ち。庭。を  
山。の。方。面。隣。地。の。人。の。主。殿。と。怒。り。あ。り。後。に。お。め  
勝。ま。こ。い。ま。さ。う。く。皆。に。来。ん。と。夜。敷。を。呼  
ぶ。怒。り。あ。り。こ。え。附。也。の。夜。敷。を。比。つ。て。集。め。て。書  
る。方。投。ぎ。あ。り。し。も。何。も。得。ず。あ。り。終。り。を  
嫌。を。感。へ。余。の。家。の。庭。に。入。り。な。る。と。余  
の。庭。も。も。全。部。投。ぎ。あ。り。し。も。何。も。得。ず。あ  
り。し。し。犬。猫。の。敷。を。一。箇。中。に。思。ひ。を。飛。き。立  
て。さ。う。似。さ。う。放。火。を。恐。れ。を。怖。ろ。う。折。柄  
杯。中。の。能。影。の。あ。り。く。も。無。理。さ。う。か



昨半迄の山吹色の枝附りに火を食しなすものありし時  
 賭く、田村家境ありしもの、群て其由徳吉朝日の  
 袖田正雄を伴ひ来り、朝日とてこの街印刷局  
 此に依頼し治本人を云々、同付自動車を  
 合此に別り、芝江南山を伴ひ大寺の朝日、  
 恩物贈り、神田と對談し、金銭の流るるを  
 ぬり重役方を怪しむる、あつたこと、さうして  
 別る、初めて大津市の被害の大ききを見  
 る、一面の壁全き破壊し内部女らいる、  
 危険甚し中庭にて二トと張る枝あり、こゝに  
 る子孫を執りつゝあり、紙片家もいへば其

一と出せしもの見え、老いせ、宇都宮へある  
 真島とて見え、おらしく北丁一人半傳、老いせ  
 ると、このおく、後臺の杉山社、代理印刷局  
 頼の為め来り、云々、一と去り、朝日紙を岩崎  
 三井の家各五百番、田正雄此大寺、宇都宮附の  
 報をも携へ、今日とて配本を云々、云々、三  
 合也幸に印あり、家へ来り、午後、午後  
 雷雨驟あり、外山中、五六、見おる、岩崎の  
 高田は、皆を全部所為の書畫とて、云々、とて  
 目録とて、云々、現品を日本橋の某所に、携し  
 つき、云々、全部、鳥有、ゆし、とて、本  
 高田の、云々、とて、並未、云々、萬、云々、

七日

早朝廣愛社が松山忠次中司の印刷の後援を懇  
請してある。周知中紙後を視察の爲め来る大  
要を話し七葉記でも今朝の新聞紙を報  
ず本所被服廠、廻難し七終に焚死し等あ  
総計三萬二千六百八十員名と又暴利取  
得令、流言取締令、債権債務一二月延長令  
月給前減令等の配布を見ら、又新聞紙を  
横濱の死傷三十萬人と報し、生金保険支出  
額豫算約二億圓と報す、九時を以印刷会社  
に別り十時重役会を開く、才一の問題を各朝  
専社の依頼に對する返答の問題也、今此迄に

するものも救済の爲め十二日迄休業中と云ふも、  
新専社の依頼に返すも、能くならざること、  
且つ電氣も未だ器械を通せず、輪轉機軸之  
も故の着くハ十割の運轉不能の状況あり、  
此處は専社の依頼に返すも、後々社業の  
混乱を生ずる事あり、高層の若輩之れを非と  
す、その社名を仕の上りあるんハ切のハ社位  
の依頼に返せさんハ社名に對し、満ちるも氣味  
もあつた言に條件を定めて朝の紙の依頼に  
返すこととを決す、但し一内百一頁に限り、  
并に印刷器械力の許す限りの枚数と定め、  
後者其他に對しては謝絶の事、朝の紙に

すまは其先口をさす因う、其他一二重要の件を決  
す、朝日の神田三雄に余も決定を通告し、後  
の社長代理に就くを、後、今社の午、おの、段級  
を喫す魚乾の口を上げ、一日、其初めて也、今  
社も自動車、并に大工借受の約成る、由、書後  
山田清心、高橋源一、白根治、中一、種村外出  
政部、長崎の玉、さし、如、あ、文、三、兄、あ、こ、未、さ、よ、相  
輝く、粘米、今社も、米、五、升、買、入、増、田、義、一、色  
ろう、さ、く、十、五、本、始、ま、る、白、粉、も、大、根、荒、干、始、ま  
る、半、後、驟、雨、あ、り、今、日、の、地震、を、感、ず、る、漸、々、  
、反、動、を、試、す、お、の、も、十、二、時、前、後、あ、る、あ、の、の  
、巨、震、を、

八日

時、今朝の海印刷の自動車、を、傷、り、回、出、幅  
、類、を、大、隈、分、館、に、移、さ、ん、と、し、先、づ、番、館、に、を  
、附、す、貨、車、傷、入、の、以、外、は、加、入、を、今、社、に、告、す、  
、十、時、貨、車、一、輛、に、直、ら、る、積、こ、込、り、一、回、  
、十、一、時、貨、車、一、輛、に、来、り、又、積、こ、込、り、見、え、  
、一、回、了、り、一、回、を、送、り、出、物、は、一、回、  
、一、回、八、十、二、輛、に、あ、り、外、に、番、外、一、回、  
、一、回、十、一、輛、に、あ、り、番、外、を、一、回、  
、内、に、物、は、若、干、あ、り、大、隈、分、館、の、花、を  
、破、壊、し、な、り、あ、る、南、分、館、の、出、物、に、保、及  
、さ、り、こ、と、あ、る、り、計、り、の、出、物、類、あ、る、の、

高し梅し得て漸やく降心、此れをも亦家、猶も  
虫箱五斗餘あり、此れ寸取圖書若八十九あり  
坪内兄弟、子あり、大工天田早大、理科教授相  
山均一あり、父の破損家屋を換し、立るるの業  
を立つ、森陽園本、季三、関大、木花、時、即、時  
交り来る、町内警備持久、業、つき、今、滋、ある、夜、人  
を老す、電燈を不、敢、一個、點、する、由、中、来る、  
危険の虞あるを以つて、室内、ある、点、燈、せ、る、こ  
と、自決す、三浦、花、并、と、兄弟、見、る、こ、来る、時、  
餘震あり、此れ最も、遠く、去、る、暴、風、雨、未  
るべしとの、云、被、あり、地、所、山、積、の、屍、体、を、焚  
く

九日 日記

の口家屋を起す都合あり、甘更なる、不同家屋を大  
隈分館に移き、この海印、別名、此、人、を、老、し  
自動自動車を借入んと、人を老す、任、事、破、損  
の由を、此、ま、或、知、り、已、あ、る、ま、家、屋、の、元、片、付  
に、没、頭、寸、取、本、若、る、個、外、回、也、類、茶、室、附、属  
押入に、旋、り、と、此、の、甚、な、道、を、昔、を、一、時、家  
を、起、す、ま、若、更、なる、ま、や、稱、す、田、中、穂、積、深、江、順  
男、坂、の、増、あり、日、誠、高、田、修、雅、伊、藤、輔、利、  
等、交、り、見、る、こ、来る、大、工、天、田、早、大、の、打、合、こ、来る  
和、兵、衛、平、ら、し、壯、丁、一人、を、年、俵、に、奉、り、欲、す、  
宮、崎、町、三、丁、見、る、こ、来る、本、の、浴、室、山、雨、儀

あとを掃除しうる。出版部もさるるの印  
のり土工に現金揚を要する以て金の必要あり  
り。法銀行もさる仕出しを為すの運びに  
此際金動弱る困難也。又刺家夜の杜丁一  
：起つて風台桶に板圍をとり、風台を焚く初  
め一浴を得ず、晩おのハム牛肉あり、漸か  
境を脱するの思あり、地震ありにます死  
最早一憂あり入まき、戦に大比の多  
グりと云ふ、夜入り豪雨あり道  
：爆音を遠くちやく工兵の橋梁  
物を除却するの言也

十日

雨、明けの大雨、雨漏りやと捨てて  
たもさすべし無さる。早朝増子  
中々のことを云うし。且つ白米六升  
と新大工も家の引籠り、又  
し、雨降向のため、佐平、  
材を得る道ありと云ふ。荒干  
初めに暇を得る。一日以来未  
此五時を暮し、大要あり。午後  
突ハス江村と森陽、村交、  
杜、杜絶、付場、湯、湯、湯、  
地、地、地、地、地、地、地、地、

河を泳ぐ状況も視察ありて。報二回く河中の死體  
未だ其供うし酸鼻の極也。本不道惠吳約  
るも通行困難也と。本の正午一云未を旋回し  
て一回試念と曉のの料理と、事常と道  
りし、何事と幸ふとを相附じの電機皆暗  
余の家電線も故障あり正午一云未の文が出版  
り自着車一匹傷入る、と相傳震の身体三感  
す。禮のよまゝ、初めとあつても得ず

十一日

夜来の雨漸やくつ、五時起床。今朝の朝も此部  
下焼く家屋四十一萬餘と報す。横濱の死者

約三萬、負傷四萬千餘、大震以来震動数昨  
日正午(正)千六百六十六回とあり、今朝神戶(正)  
ゆきの軒を三太(正)兒の友人(正)の泣く中其後  
を延て三十八時、汽車の急根、臥し途中、  
一合もゆつと、その北汽車の車庫、鮮人溺る  
る、車掌目を殺し、その服を奪へんとて  
格闘中、大勢鮮人を打撲し、その時九時  
大工土方春の先づ、玄関を元、閉し、吐き、  
と起し方を始む、九時半、の街即、制人等、  
り、以後日らし、悦業、その法、  
協議、又五万の工場、各人白米一升、  
決し午後、和田、見、

栗田興而米の又頃五斗を以て見為す其の平  
山由之而利助申す和由萬石支一石を投  
古池幸三才なる本日土方五人来り云國并  
九三連接の三疊取崩畢り昨日起し方着  
手の荒れ水崩れ負傷の向部を切断し他を  
濟ふと一般之れを陰うせんバ母屋を起す  
と枝の六六七其言不確同じ而合云國を  
塞ぐの所あり本月初め町内も幾尾の海  
魚を領り来り都下へ来こべき米差而八十一  
萬石ありと報す最早食糧欠乏なる可  
なり却つて地方徴費と云ふこと不足を感す  
又是をん歎賀田以武見舞未の、新文紙の

報す今( )都民の不安を退くよの二十  
と午後幾次地震を感す震災未終  
会成とせんをのり北のりも無るも  
の報す、町内救護団へ金三十圓寄附

十二日

二百廿日平穩今朝の新雪低く米穀生自給  
輸入税免除撤廃の勅令を勅す、追つて  
災者の先税令出つへしと報す、八時半  
かく其の土方亀戸と来り引つて三三の  
る板の間才二入口とも云崩す、家の前面一  
線、空濶然たり、内ぬえ竟に凶状を為す

考、高村真武、三浦半島浮上りたり、水  
位曰：復せんとす。又、横濱市中村町の亀裂  
より熱湯湧出、新島島出現、女と知り、やと傳  
ふ。十一時、生島、の起し方、着手、首相を  
深敷し、帝、御後、具、横濱を起す、廟、議あり、  
と、新、文、紙、の、報、す、賀、田、立、治、朝、鮮、を、山、部、来  
又、島、に、す、も、坂、口、献、去、為、父、(五、孝、)の、忠、状、を  
云、す、大、の、帝、政、に、珍、察、の、結果、利、唐、此、月  
を、維持、し、得、すと、内、報、し、て、去、る、山、田、平、桐、山  
均、一、十、年、次、文、三、十、後、崎、玉、に、く、る、山、田、平、桐、山  
お、き、麻、布、込、人、を、買、ひ、に、去、り、差、干、を、得、し、る、  
樋、口、清、策、来、訪、新、文、紙、の、報、す、徴、収、不、能、の、國

税二億圓に上ると、新、河、中、九、月、一、日、分、漸、や、り、  
現、を、し、早、大、破、壞、の、大、海、を、系、に、自、宅、取、り、  
言、演、前、の、芝、景、を、撮、影、せ、し、あ、本、在、傳、部、  
未、二、四、時、に、あ、二、河、漸、や、り、本、位、に、復、す、  
八、時、に、大、街、に、ゆ、り、あ、り、来、り、日、白、文、二、  
も、来、り、高、橋、に、五、十、山、河、中、刻、に、復、す、  
茶、の、間、台、所、積、に、心、に、復、す、の、次、を、起、  
せ、八、全、部、に、復、す、し、倉、庫、を、復、す、  
こ、来、り、今、次、火、災、保、險、に、附、し、あ、り、家、屋、被、保、  
況、額、廿、八、億、と、云、ふ、金、地、の、規、定、に、地、震、  
に、あ、り、火、災、に、責、任、を、負、い、る、に、さ、う、あ、り、  
國、家、防、衛、の、措、置、を、き、入、れ、る、都、令、の、回、復



空のり又あつた。法銀行七間接し打撃の  
倒産するも、目下は横の河越と政府  
如何の之れを要記するやうなり

十三日

昨、昨、燃、火、後、を、甚、く、大、祝、を、  
の、形、で、出、づ、八、時、前、の、を、神、樂、隊、に、  
坂、の、年、の、病、危、に、協、議、隊、を、外、二、三、日、  
用品を購へて、種村宗八出版部の用件  
を、帯、び、来、法、十、一、時、驟、雨、利、り、後、物、を、  
方、向、に、引、つ、ま、台、所、を、た、し、昭、告、印、を、  
母、屋、に、接、続、す、後、没、の、家、根、を、元、二、の、坂

口、五、分、を、出、状、を、持、老、さ、市、内、電、話、八、萬、四、千、  
の、内、六、萬、二、千、焼、失、未、比、後、田、の、見、込、三、三、  
ふ、二、日、越、後、又、舞、状、荒、干、も、知、道、和、平、  
其、元、又、田、川、文、才、本、の、大、工、二、人、七、名、五、人、  
才、り、二、時、に、茶、室、離、れ、去、危、の、お、ろ、三、五、  
ふ、着、下、の、瓦、土、を、桐、の、り、運、搬、桐、を、山、  
を、為、る、越、後、二、日、の、法、行、を、と、説、ま、る、震、災、  
の、親、撲、甚、れ、か、さ、如、く、信、お、通、信、不、能、無、地、ま、  
ら、お、杆、危、六、四、千、五、千、未、る、杆、危、一、家、備、失、  
岸、五、才、幼、又、刻、に、全、部、心、後、後、半、  
照、風、豪、雨、を、伴、い、三、時、五、時、に、  
殊、に、強、雨、漏、り、な、る、幸、に、家、具、同、志、を、濡

つらつら

十四日

朝来立派な雪が降り、日清印刷会社二階より  
自動貨車を傷めることととも七時、改二前より  
既の四時おと大隈を降り、降りける高三四  
十の大隈より分四時より高き、再降降ける  
必要あり、内倉又寛く出れと持たせたり、中  
止の全自動もともあり、十時雨雪、又三時、  
り来る、前田大隈分館、あつける、高物一、  
八十二番、に至る、以、高物の十一、  
の晴ることを待たせんとする、高、八十三番、

る、  
る、  
り来る、  
中、  
押入破壁、  
忙を極む、  
自動車を、  
大隈分社、  
来の、  
後、  
と、  
雪、

都の及、都下銀行の事務開始を為さざる漸や  
多し、何の仕掛、少くも預け入れ割合に、好く皆  
互平勢、ことと、横濱生糸の損失六千若月  
此體片付の人夫、日給廿五円と合算、ことと、  
か神事、心、言、の、日、給、と、十、日、也、浅、米、の、祝、言、也、と  
五、重、塔、を、安、海、の、震、災、を、免、え、ん、か、今、日、七  
無、り、也、田、島、平、貴、野、を、と、焼、去、日、本、公、債、一、時  
低、後、や、と、立、り、復、回、復、す、料、取、る、も、無、り、と、得  
た、り、紅、蓮、後、と、外、二、ある、も、小、栗、敏、江、嶽、も、出、京  
す、り、三、時、す、又、大、驟、雨、降、り、阪、震、も、う、後、臺、の  
高、橋、も、う、会、社、所、有、の、モ、ノ、タ、ク、ヲ、を、借、り、ん、こ、し  
と、も、こ、し、断、り、し、返、す、大、工、夕、刻、に、取、崩、し、る、家  
余、の、家、こ、り、す

十五。

の、前、而、二、三、の、廟、を、心、り、日、暮、の、小、栗、敏、江、嶽  
余、の、家、こ、り、す

凡、達、し、分、朝、の、祈、り、紙、と、寄、任、外、相、伊、集、院、を、去、  
任、余、と、と、報、す、あ、て、祝、應、の、詞、有、り、福、の、ハ、記、有、  
七、萬、三、千、人、と、あ、り、地、方、こ、き、り、都、民、も、萬、人、地  
方、を、入、り、込、り、す、れ、の、三、十、二、萬、と、あ、り、勤、め、足  
減、び、と、又、饑、を、る、よ、の、八、萬、人、被、服、廠、死、者、の、数  
帯、せ、る、金、約、十、萬、圓、と、あ、り、今、朝、の、早、京、日、こ、り、  
言、難、者、(避、難、所、注)名、を、表、す、べ、又、但、細、字  
四、頁、と、海、り、未、定、才、二、回、救、恤、金、七、十、五、萬、圓

支出、焼跡仕立費一千萬圓、處分より救護を乞ひし  
赤化宣傳のりるしニシテ、来る直ニ退去を命ぜら  
ること、戒厳司令全部の調査に接んば東京近郊倒  
壊家屋五十萬、死亡者約十萬とあり、高島方又未  
リ長尾の曲りを直す、大工貯りあり、来る、雪燈後  
四のあめ、多く人ををる、ト又ニ板十枚、跡へ寺敷三  
田九十丈也、驟雨時、去来、地震災、多く本所  
深川下谷、段々寺取甚地、柱も、区役所登  
記所共、燬火の法果、所有権を滅失、甚多  
り、罹災者、柱を奪に所有権を立派し、得る証也  
も有し、若んか、多も、角、死も、若し私権を、何、準  
據して定むべきや、後司法上の大問題、又、居し心

ニ漸やく、餘地を生ずんば、此問題、移るべき、必死也  
昨今司法部、柱を、最も、注意しつゝありし、去、税  
務部長の、張濤の、全代、吟流、に、得し、不、め、り、  
、知、郵便貯金、に、動し、七、四、一、の、困難、も、も、三、三、  
、直、も、り、在、平、十、年、の、陰、三、拾、圓、後、典、え、い、め、し  
、る、旧、台、所、入、口、：、工、億、太、の、バ、ラ、ウ、ク、を、建、七、拾、五、  
、ニ、元、人、と、し、大、工、取、扱、の、今、の、公、務、書、店、松、雲、を、直  
、り、焼、火、の、状、況、を、得、る、洋、書、の、架、の、滅、失、甚、多、  
、破、壊、し、る、材、を、焚、き、其、火、を、吸、つ、て、茶、を、煮、火、の  
、敢、て、鉢、の、木、に、燬、り、二、の、ま、り、二、天、ま、小、栗、枝、  
、ら、く、本、の、出、版、の、曲、り、直、し、せ、る、の、香、徳、直  
、り、者、も、勝、れ、る、畢、る、高、人、三、十、人、在、田、道、

皇代三十五回計る三十五回内二十回前の内  
湯島引八十回也掛海湯島式法ゆえ  
あこまこ

十一万

風強く雨未だ収らず、今朝の地震は震災甚  
の以て帝都復興委員事務局と云き政府の諮  
問機関として臨時帝都復興委員と称する  
行政廳を置き、その官制の概ねを記す  
とあり、消防本部の報告に據るに震災と因  
時、七十六年間に火災起り三回、又直り八十  
ハチホに起るは火災の雨廿三ヶ所、消し止めたり

あり、全焼四六あり、復興の以て大なるを據る政府  
ニ確保資金として納め、四十萬圓の貸下を以て  
尚ほ十年に達する二萬圓の補助金を以て  
の分を取纏め、一時下物と稱する資金を以て  
復興を圖さんと政府に交渉中と報せ、警視  
廳の紙紋を改焼亡、横濱州に海賊船七十二艘  
を拿捕す、大工二人未だ一人ハタラックを振り一人  
室内の修補にあたり、先時とも天氣漸や  
く復す、匡平らも亦一人手傳に守り、中  
田海老舟の跡を岸にまき、山千のバラックハ  
タニ屋根成る各處も見る、杖漸か、利子、子  
校も特二月額金を七月末を待す、空のそら

四時に又驟雨降る。今の寝室茶の向にありて  
寝室の中間の縁等をも多しりる。壁の夜を  
とる紙と張る寝室床の石壁全部に  
と未だ紙を張らざる隙の三寸並の  
雨漏を防えぬ大工の家族共丁場家根を理  
す

十七日

昨、今朝の雨を以て上帯却後奥室漱も皮判  
系に顔箱が表に宮家より二十萬圓字の紙を  
家の中へ各回也大使館を移すと報す。今朝  
大工三人来り、森脇錦見山才来り、九時三時迄  
所迄

と五時の雨を以て表弱きしけんとも持續す  
べし。昨、今朝早福田大工の焼火所用科字の  
貯金をと見え、四壁何れも無大工二人  
室の修理に掛る。根太度朽り為仕事せん  
取らぬ大工困し。十一時迄動改方面に火災  
起り、三十分計、二匹焼火。口は印創金起り  
明日午前十時余の出社と修むの仕立あり  
台所并にハラのクハ今迄りある。茶室に漸  
く此處修理未だ着平と云ふ。一回大勢力  
比るに夜も又刊報。二回中央法事者大工  
町色に地をおりし。二の葉。修むるに急  
と決す。今午前の火災三河崎もも

戸籍の事

十八日

此の今朝の新聞は概して七五と得るものなるが、  
人と報す、又五十億の愛市公債を募集し市の  
私有地を買収せんとするの議ありと報す、大工又  
三人来り、又宮中の輸入税免除勅令が布、火災保険  
と祝別、物と何等々の名義を以て一刻支出の  
事、三三三と云ふ傾向あり、  
十月十日の印刷会社は、  
社日今後の方針と編纂する、  
又一場の訓示演説をなし、三時由吉、

寄るをいふ、  
ノアの世に生れし、  
火の海のうち、  
大なるわが、  
人の力の、  
此の人の心、  
此の人の心、  
いしつる、  
人の志、  
大なる、  
や、  
不在、

寄るをいふ、  
ノアの世に生れし、  
火の海のうち、  
大なるわが、  
人の力の、  
此の人の心、  
此の人の心、  
いしつる、  
人の志、  
大なる、  
や、  
不在、

一本庄協印、本年のバラック成る。明日を以て  
ニ取掛の言、このバラック也。茶を修地漸く  
成る望する。大破、口を其他の方面に漸  
やく見ゆる状なり。

十九日

昨、今迄の積金の貯金金の焼火の爲め二府八社の  
貯金原、浪島有、得し、このことを報し、貯金者の  
六万葉金銀三億圓と注ぎ、公債貯蓄者の焼火  
のり、出備出三百萬圓、公用貯蓄一億圓、貯蓄の  
積金約七千八百萬圓とあり、又雲山、大、貯蓄  
各程、積減、枚数一億二三千萬圓と云ふ、海外

よりの寄附金十七萬圓、約五萬葉の圓、東京、貯蓄  
別、事、貯蓄、漸く、開通、焼火の各、区、今、今、米、集、原、貯蓄  
過、よ、最大、の、場、力、を、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
ぬ、と、云、ふ、今、朝、米、爆、発、の、爲、め、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
量、の、取、出、時、の、爲、め、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
ま、上、の、貯、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
各、所、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
の、積、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
堆、積、の、破、産、一、部、を、地、に、埋、め、茶、を、修、地、漸、く  
貯、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
漸、く、あ、る、貯、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
貯、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、  
貯、蓄、も、一、日、の、積、蓄、三、千、五、百、萬、圓、に、達、し、



梅屋高き風を梅を修理し異よ、雨戸外邊  
子立て皆略し後舊いせあり方面全死終る  
浮田橋土第の場あり在り、屋宇も全壊せり、  
机のちこ伏して僅に息をとり、背の上持  
横傷を多く得し、軽傷ともあり、三十坪あり  
海より、東京のこのり、報す東宮御成嫁金  
金御延助、十七の兵庫船中、五十歩の地す  
べりあり、人心拘りなり、河勢噴出大柱天に沖す  
この七十歩のり、川崎方面に又十五歩の生  
糸を汲みたり海賊船ありと。

二十日

明、震災後既二十日とさる家々に花のり  
僅うの早稲の方面に数次継続し、このり、近來  
北徒に向いず、ものを和生あつたり、七世捨てん、  
時光を住む電燈もも九段をさし、出、遺兵敵  
の梅松を越り、飯田河の塔松をえ、九段をさし  
電燈も、ある、二舟進あり、神田の、日中、梅松を  
通る、し、高き切ら、五、六家の梅松を抱  
し、神保町、らと、又、電燈も、も、呉勝村町、ら  
あり、此、高き又日本船の、このり、火災を免  
う、このり、このり、満、日、出、を、このり、火災  
町、下、日本橋本、り、出、を、このり、  
の大高、店、西洋、多、く、僅、ま、二、三、の、建、築、の

外側壊し且つ火災に罹り喰ひ残骸を  
又外部を多量の火災の内部を破壊し  
物と生存を失ひ、死者も又の故を其の  
家の物也。日以谷公園に入り其の夜夜のハラ  
ツラを見る、乗合自動車も再び白を掃き  
さき飛出せる所、下車し、この袖係り  
の間の火災状を視察し、其の下も又電車  
に乗り十一時帰宅す、大三人乗る一人引つこき浴  
場のハラツラを一人並み方面の修理に  
手、度敷心住、陣子張、取、午  
後歸り、橋井、市河、三、橋、義、彦、  
四、事、務、市、河、三、橋、義、彦、

ついで、この見事な十数回、列車

二十一日

鳴川、大、二、人、乗、る、本、の、も、漸、々、家、を、の、教、心、地  
こゝろ、高、橋、海、尾、の、間、に、震、火、の、惨、状、を、報  
す、火、災、を、起、る、所、の、煉、瓦、残、骸、取、出、し、の  
為、の、爆、発、を、起、る、事、も、即、ち、其、の、見  
事、な、別、の、橋、脚、天、井、二、ヶ、所、破、損、修、理、地、坐、を、  
雪、隠、修、理、す、所、は、其、の、上、を、隣、室、二、ヶ、所、  
押、入、中、紙、張、り、成、る、午、後、十、三、時、開、口、而、し、  
付、雪、煙、多、量、に、破、損、の、修、理、を、決、断、す、雪、煙、  
令、此、に、於、て、皆、焚、火、を、令、修、理、の、材、料、を、

云の間に由公いせり、折紙より紙を引きて、  
今より二燈籠點すまの二風を流し、神を  
只今鎮し地事、無ると驚し、横濱の塔、  
語す、又方又雨あり、坂本三郎、  
施れ、乱し、用も其他略々、  
三十枚第一の用に供せんし、  
下品を得んとし、申込を為す、  
家に移る、夜来、  
雨漏云し

二十二日

雨今朝の晴、  
収を令せと、  
伊と政府と、  
破損と減

田此海、  
聖令、  
双と潰し、  
の御、  
来と、  
料、  
得、  
米の、  
物、  
支、  
番



才来雷心とも又亦然然と利又思本在場印  
と此と志きまゝの罹災の状景を撮影既ニ得た  
る故中ニ達す神歩は東西雷終底抜け  
り實地を捨すの母休電停架設之完也  
岸至来海・國古路場を幕金しより快柱  
同人の備も解くことと示談す。

二十三

雨雷冷氣ありし今朝の終り紙を裂視鏡神者  
の数を掲ぐといふ市の焼失家屋三十萬千戸市  
者の死の者六萬五千餘由被服廠此の死者四  
四千餘又同焼損の電車庫を避難民の故の

住居に充つて、電車街ありし、車庫其の  
台所焼損の後、庫内二萬三千餘の大世帯  
也、町舎も烈焼代に三箇を留まると此中解  
馬車おのり、此の車を解し中に者前を入る  
あり、今朝は二天あり、庭前山積の古木枝  
後、後二子の此七人あり、使田しり、  
枝の缺乏を感す、市面雨戸のたて心正午  
止に成る、野にも向支那も七の出来、  
司会部の一中尉の軍法令成に附て、  
形も紙黙殺するも、大杉栄と、  
死に附して、  
有るも、  
三三、  
進退、

揚子と偽り、此件一三度とて岡崎の干係と一三度  
岡崎の河におへきこのころと後原内村を異論記  
したる為めこそ大村を殺して中尉の連するあ  
らわすとやしく各地にも見事状を接し京都  
の谷村一太の一馬の命今中一八一とて本年同境け  
出さるの山口劉南分回るいふを報し来る午  
後電燈復元付る。二十三日日曜日室内に  
めり燈りの光に浴する浴室兼に附帯物室に  
うづり成る。此のころ屋根を藪おの十マの板  
未比手に入らぬ午後又降雨。はあ入口施設  
齧咬小椽二ヶお元付け置る。此の電燈子四  
枚張皆漏る午後二時止(大西、電燈終結料九

内二十長柄漏、臨時物資供給会並特別会計令  
公布、被服廠並に納骨場を助成し記念塔を  
建て公園とする等の決定の由又刑小敷より内務省  
の調査を概んし都下の罹災者七十七名人の四十二  
名を郡部、お難し五十名を地方へ送り歸る  
五十名をハラウる位は若くは山の千塚家に同住と  
あり。

二十四

雨風相尋家々障子張替つとあり、今朝の冷氣  
殊に甚し、庭の園芸者のいし、今朝の冷氣  
極く、焼物、個人の意はハラウる三茶六千飯

戸人数十六万七千人復興の急を察し賑濟とあり、  
東京の輸送の米を蓄積し達し為り、地方の米價  
を騰貴せしむる傾向あり、農高米を根拠七十  
萬石の米を政府に逆送りするに、市内の焚  
燼を急速片付けると見、市を蓄積を出し、  
災者一萬人を養育する旨勸諭：服せしむとあり、  
災後火災保険業者と政府の懸論より、慶合会  
し東京所在の会社を若干支出、急ある七箇市在  
の会社と不連続の為り、今以此に激怒し、為り、火災  
保険会社と凶名に後すべし、北場合之んを断りす  
るに、如樹とて説くとの多し、帝大復興の為  
に、前田侯ハ亡難人記念の者として其邸地十

萬坪を帝大に寄附と決すとあり、ハる大ニ来る  
家人床の間に所床脚壁、上の法を為す紙  
ハ茶褐を洋紙を一時醜を蔽ふ、是の午後  
雨風急ぎし、雨の雨端より、左の雨とも、  
ハる、爆音雨の中、驚く、家事を懸念  
し、夕刻に到り、深夜雨風猛烈、園中橋をの橋  
破れ門の柳折る、天の雷も漸やく和む

二十五

風ぬり来た、雨天を晴す、と程の雨も、  
甘物火に針大杉葉を殺し、  
有、植木を根き折れ、  
柳二年入を

大工二人来り西門二河傾斜を埋す。是五日の内  
子ニ交は大改方面より敷道より見舞物到り。身  
取等の重なる。池水湯へ家前の溝渠も道路修  
築の石を以てり。寒より水出の節は。溝渠を  
疏せしむ。此の力を以て池水漸や平。常  
復有十時早大の維持會に候も。常  
震災に關する花枝校務の敷き。十月十日  
より授業を開始す。十二時帰宅。天気漸々回復  
す。塾場つけ漸や進む。古木材のあり。同のよ  
を新に化す。大工浴場の改りを以て。平  
植する。竹の植を以て。準体を為す。年不足  
の事。此の速く運ばす。も漸や々なる。

別と報す。此の凡を以て。難高のハラウを以て  
破壊し一層の塔を以て。又古海を以て。是  
め不道と云ふ。又都後奥の深沼に。元の  
供品に特別課税を以て。此の難高の以て。月  
の。又大改方面を以て。此の難高の以て。家  
物。園子を以て。園子を以て。此の難高の以て。  
少く。又大改方面を以て。此の難高の以て。家  
震災の以て。此の難高の以て。

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. The columns are of varying widths, with the outermost columns being the widest. There are small blue markings on the left edge of the page.

十一  
八  
九

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. The columns are of varying widths, with the outermost columns being the widest. There are small blue markings on the right edge of the page.



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

